

## GAYE SU AKYOL (Turkey)

ガイ・ス・アクヨル (トルコ)



歌謡大国トルコから世界に飛び出した才能ある女性シンガー・ソングライター。ヨーロッパとアジアの交差点イスタンブールで1985年に生まれた彼女は、少女時代にはラジオから流れてくるトルコの歌謡音楽に親しむ一方で、当時世界的な人気を博した欧米のオルタナティブ・ロックを聴き、音楽の魅力に目覚めた。文化人類学を学んだ後、芸術家として活動しながら音楽表現の場を探していた彼女は、ブビトゥザク(Bubituzak)というインディーロック・バンドと出会い、共に音楽を作るように。彼らの持ち味であるサーフロックやサイケロック、ポストパンクといった音楽性にインスパイアされつつ、そこにトルコの伝統を絶妙に織り交ぜ、彼女ならではのオリジナル・サウンドを確立させた。これまでに2枚のアルバムをリリースしている。

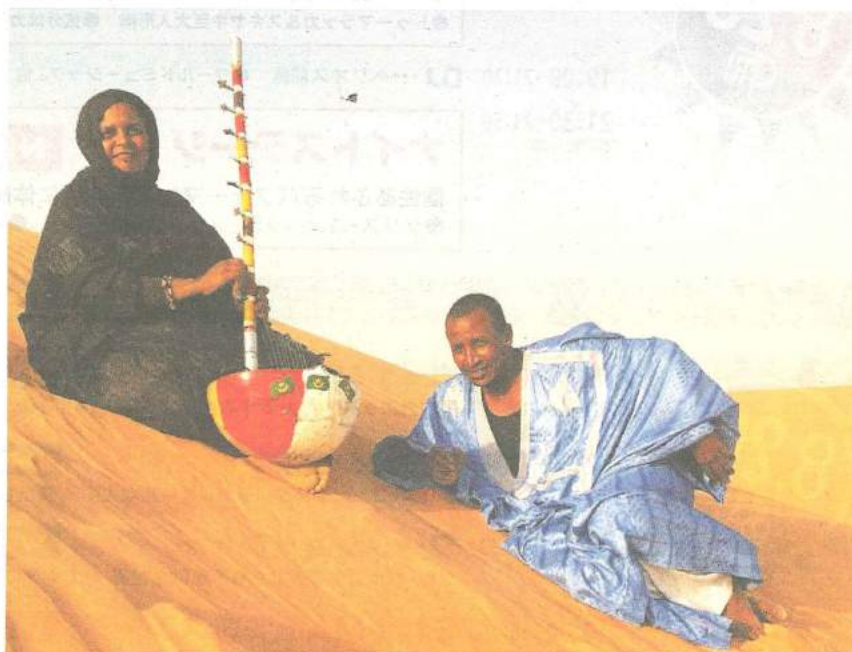
●来日編成: ガイ・ス・アクヨル(ヴォーカル)/アリ・グスル・シムセク(ギター)/エムラ・アタイ(ドラム)/ゴルケム・カラブダク(キーボード)/ゴカン・サヒンカヤ (ベース)

スキヤキ2017  
8.26 SAT フローラルステージ

スキヤキ・トーキョー  
8.29 TUE DAY1

## NOURA MINT SEYMALI (Mauritania)

ヌーラ・ミント・セイマリ (モーリタニア)



アラブとブラック・アフリカ、そしてベルベルの文化が交差する西アフリカの国モーリタニアを体現したミクスチャー・サウンドを聴かせてくれる女性歌手/アールティン奏者ヌーラ・ミント・セイマリ。国民的なスター、ディミ・ミント・アッバを継母に持ち、また父も有名な音楽家だったというヌーラは、西アフリカの伝統芸能を世襲で伝えてきたグリオ(イガウイン)の家系の出身でもある。13歳より音楽の道を志したヌーラは、その後、夫で弦楽器奏者のジェイシェ・ウルド・シガリと共に活動を開始。ジェイシェは伝統弦楽器ティディニートの演奏家でもあるが、いつしか特殊なチューニングとエフェクトをかけたエレキギターに置き換えて演奏するようになり、それがヌーラの音楽のユニークな味付けになっている。これまでに世界中の国々で演奏を行い、大きな評価と喝采を浴びている。

●来日編成: ヌーラ・ミント・セイマリ(ヴォーカル、アールティン)/エル・ジェイシェ・チガリ(ギター)/ウスマン・トゥレ(ベース)/マシウ・テイナリ(ドラム)

スキヤキ2017  
8.26 SAT フローラルステージ

スキヤキ・トーキョー  
8.29 TUE DAY1

## BANDERAS (Japan)

バンデラス (日本)

哀愁と情熱、ダンスブルな破壊感と強烈なエネルギーを放つ豪華メンバー11人による大所帯ラテン・サルサバンド。2014年11月、ファンク、レゲエ、キューバン、サルサ、アフロビート、ダンサー、DJなど様々な音楽の現場で独自のスタイルを持ち活躍するメンバーが呼応するかのようサルサの名のもとに集結した。いったい彼らはサルサという音楽に何を求め何を発露させようとしているのか…汗とロマン、笑いと涙を胸に偉大なラテンの先人たちのマナーを踏襲しつつ、BANDERAS独自のサウンドと強勁なグルーヴを追い求め、今日も彼らは行く。FUJI ROCK FESTIVAL 2016出演。

●編成: ピアノ 小関一馬/ヴォーカル 萩谷嘉秋/コーラス、パーカッション Yasuji/コーラス、パーカッション Tinnen(ex.EKD.ex未来世紀メキシコ)/ベース 大友正明(ex.BUBBLEGUM BROTHERS)/コンガ 伊達弦(ex.Orquesta De La Luz)/ボンゴ Izpon(ex.KINGDOM AFROCKS,ex.AOA,犬式,銀座Dopeness & Doping Band)/ティンパレス 小川岳史(ex.JEMSTONE)/トロンボーン 中山まさゆき/サクソフォーン イチロウ/トランペット 四方田テムジン直人(Mountain Mocha Kilimanjaro)

スキヤキ2017  
8.26 SAT ナイトステージ

## HARMONICA CREAMS (Japan)

ハモニカクリームズ (日本)



ケルトの郷愁と疾走感、ブルースの衝動と即興性。全く異なる音楽をハモニカ(清野美土)×フィドル(大淵愛子)×ギター(長尾晃司)+αが一体化した爆発的なエネルギーから生まれるグルーヴは、まさに未体験音楽。2008年結成。2012年にスペインで開催された世界最大級の国際ケルト音楽祭「Festival de Ortigueira」のコンクールでアジア人史上、初出場&優勝を獲得。その後も定期的にヨーロッパツアーを敢行。2016年発売の「アルケミー」は、スペインの

ガリシアでヨーロッパ各国のアーティストをゲストに制作されたアルバムとしてヨーロッパで話題となった。アコースティック・サウンドながら、10万人の会場をも踊らせる彼らの音楽は、常に変化し続け、留まることを知らない。

●編成: 清野 美土(ハモニカ)/大淵 愛子(フィドル)/長尾 晃司(ギター)/田中 佑司(ドラム)

スキヤキ2017  
8.26 SAT ナイトステージ

## TUMARACCA (Japan/Sukiyaki)

トゥマラッカ (日本/スキヤキ)



スキヤキ2013ワークショップの受講生らによって結成されたスキヤキ市民楽団トゥマラッカ。ブラジル北東部のリズムである「マラカトゥ」を演奏する太鼓グループ「バッキバ」の廣瀬拓音氏より直伝されたリズムは本格派。昨年のスキヤキ2016では日本全国のマラカトゥグループが集結し100人パレードを達成。現在もワークショップを行い、倍音の渦を巻くべく日々研鑽の毎日。

スキヤキ2017  
スキヤキ・パレード(8.26)ほか

## BAQUEBA (Japan)

バッキバ (日本)

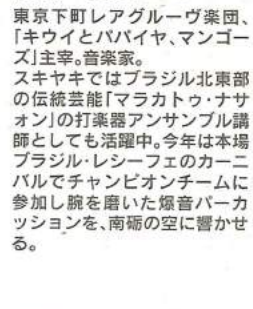


BAQUE(ブラジルの言葉でドラム演奏の流儀みたいな意味)する場、だからバッキバ! ブラジル北東部の伝統芸能「マラカトゥ・ナサオン」の打楽器アンサンブルをベースに東京で活動する轟音太鼓チーム。個性豊かなメンバーが放つ重低音ビートは各地で話題沸騰中!

スキヤキ2017  
スキヤキ・パレード(8.26)ほか

## HIROSE TACT (Japan)

廣瀬 拓音 (日本)



東京下町レアグループ楽団、「キウイとパイア、マンゴーズ」主宰。音楽家。スキヤキではブラジル北東部の伝統芸能「マラカトゥ・ナサオン」の打楽器アンサンブル講師としても活躍中。今年は本場ブラジル・レシフェのカーニバルでチャンピオンチームに参加し腕を磨いた爆音パーカッションを、南端の空に響かせる。

スキヤキ2017  
スキヤキ・パレード(8.26)ほか